

内 容	演 題	講 師
地域の取組紹介 【香川県】	みんなが主役の地域コンテンツ創造拠点をめざして	情報通信交流館 e-とぴあ・かがわ 館長 大西 佳章 氏
	<p>まず、当館の設置目的であるが、香川県内高度情報化の拠点として、県民の情報リテラシーの向上を図るとともに、高度情報化社会を担う人材育成をすることである。</p> <p>事業内容としては、パソコン・タブレット対応パソコン、スマートフォンの講座等を提供、また、ワークショップ型の講座を開催し、民間の方が実施するものとは方向性が違ったものを提供している。</p> <p>当館の役割は主に2つであり、まず1つが「地域コンテンツの制作拠点」として、2つ目が「地域コンテンツの発信拠点」としての役割である。</p> <p>まず、「地域コンテンツの制作拠点」として、映像コンテンツを制作する技術を身につけた人材の育成に力を入れている。制作にあたっては県民の視点を大切にし、コミュニティによる学びの循環とコミュニティを支える環境づくり、世代を超えた交流の場を提供している。</p> <p>個々のワークショップについては、配布資料の「CLICK!アーカイブス」で人材育成のワークショップが一覧できるようにになっている。動画活用ワークショップやフォト・ラボKなどの大人向けのワークショップや、ロボット・ラボやキッズ・アート・ラボなど子ども向けのもの、シニアのためのスマホ教室など、県民の幅広い世代の人材育成のための取組を行っている。</p> <p>その1つである映画制作実践ワークショップについては、今年4月に四国コンテンツ協議会等で取りまとめた取組事例集にも掲載しているが、約半年をかけて8回の実習を行い、「さめき映画祭」での上映を目指して20分程度の映画を制作するものである。これまでの9年間で約300名が受講した。</p> <p>地域映像制作への協力として、県警の振り込め詐欺の防止啓発DVDや、瀬戸内国際芸術祭のPRビデオ、香川県観光PRビデオなどを勝手に制作している。その他、卒業作品制作の手伝いや閉校記念DVDの制作などを修了生と協力して行っている。身に付けた技術で、地域に還元することを目的している。</p> <p>また、動画活用ワークショップは、動画による地域情報の発信で、地域の課題解決や活性化を目的に活動する人材を育成するもので、チームで本格的なスイッチングなどの技術を学んでいただいている。修了生が番組を立ち上げ、自主映画、演劇などの文化活動を中心としたコンテンツを定期的に配信している。当館からもワークショップの修了生に声掛けを行い、地域の祭りやイベントなども配信している。</p> <p>その他にも、写真とアートをキーワードに、表現するための技術・知識を身に付け、地域コンテンツの発表・保存の一端を担っていける人材の育成を目的とした「フォト・ラボK」の取組などがある。</p> <p>続いて、「地域コンテンツの発信拠点」の取組について紹介する。開館以来、「まちの記憶あずかり所」プロジェクトを始動し、今日の情報も明日には過去の記憶、ということで、様々な形で県民の方から情報を投稿していただいている。</p> <p>県民自身の情報発信にあたり、「県民参加ツール」という、安心・便利・簡単に情報発信できるツールを6つ用意している。つなぐ→活かす→発信するという流れを循環させながら、どこにもないテーマで香川を紹介している。ツールには、オリジナルホームページを作成するツール「誰でもWEB」や、ブログを発信するツール「e-とぴあブログ」、地図情報をつけて写真を発信するツール「地図トモ」などがある。10数年前から初心者向けの入門ツールとしてご利用いただいている。</p> <p>また、地域情報ポータルサイトの「37magazine」がある。かがわ県民によるかがわ県民のためのリアルマガジンである。全て当館のメンバーにより投稿された約10,000点におよぶ記事データを、新しい切り口で編集し直して発表している。検索しやすく活用される情報として発信することを目的に制作したもので、香川のことなら何でも分かる内容になっている。</p> <p>最後に、オープンデータの取組について紹介する。昨年、夏と春のイベントとして「まちあるきオープンデータソン in 男木島」を開催した。参加者が街をあるいてトイレや飲食店などの身近な地域情報をとりまとめ、無料のツールを利用して情報を整理し、オープンデータとしてWikipediaにアップした。道路地図などの地理情報についても誰でも理解できるよう、Open Street Mapを利用した。限られた日数の中で、想定していた内容のものができたので、今後も様々な地域で取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>当館が取り組んでいるのは、人材育成をキーワードに世代を超えた交流の場を提供し、互いに高め合いながら地域映像を制作し発信する手法を学んでいただくことで、香川を紹介していく人たちを増やしていくことである。一度、当館のHPも覗いていただき、開催しているイベントやワークショップなどについて、ご覧になっていただければと思う。</p>	
<p>＜質疑・応答＞</p> <p>坂本先生：地域コンテンツの制作拠点と発信拠点として、これから拡大していくために、どういうものが必要であるか。</p> <p>大西氏：新しい取組では、やりっぱなしになってしまうことが多い。当館の大きな目的は人を育てることなので、コンテンツの生み出しのコントロールができていない。オープンデータソンなどの新しい取組では、最終的にWEBの発表の場をつくるなど、修了生の行動に任せるだけではないワークショップづくりを展開していきたいと考えている。</p>		